



EVENT



チャット GPT 勉強会成果報告会

2023年6月28日に開催

導入により様々な業務効率化が期待される「チャットGPT」について、愛媛県の業務で活用する方策を研究するため、職員有志24名が「チャットGPT勉強会」(自主研究グループ)を今年5月に立ち上げ、利用に伴うリスクや、望ましい利用環境、効果的な使い方等について検討を重ねてきました。

そして、その成果を取りまとめ、成果報告会を令和5年6月28日(水)に、愛媛県庁内において開催しました。

“ログミー”風にまとめましたレポートをご覧ください。

村上:ただいまから成果報告会を開催いたします。

私は、勉強会を統括したスマート行政推進課の村上と申します。よろしくお願いいたします。

それでは早速、本日の流れを説明いたします。

本日の流れです

最初に、成果発表の部で、これまで6回にわたって行ってきた勉強会の成果、およびガイドライン草案を各チーム代表から発表いたします。

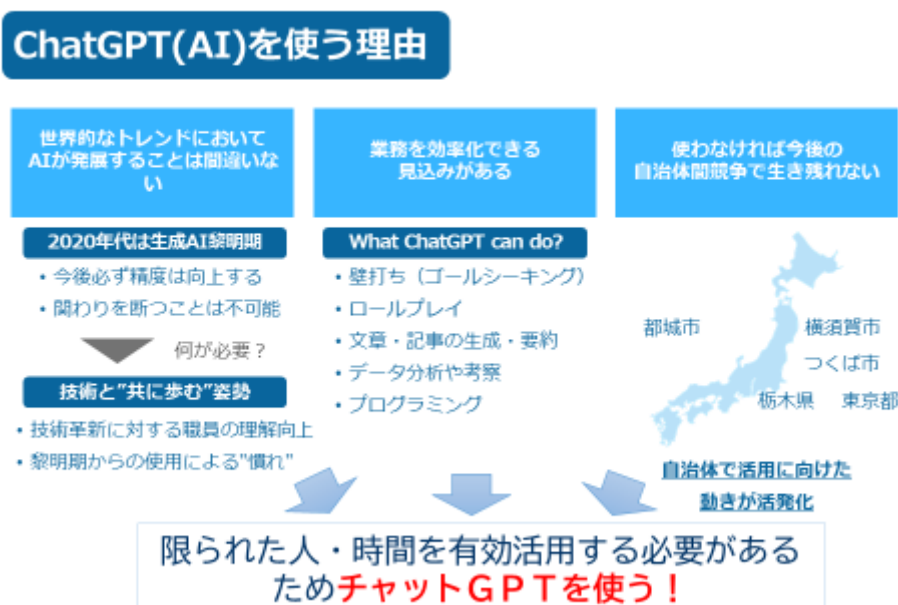
その後、全体のまとめと勉強会の歩みの振り返りを行います。

そして終わりに、愛媛県デジタル最高責任者の八矢副知事にコメントをいただき、終了となります。

では早速成果発表に移らせていただきます。

各チーム代表の方、お願いします。

渡部: Cチームの渡部です。チャット GPT の対応について報告をさせていただきます。まず、チャット GPT を使う理由についてですが、結論としましては県職員の限られたリソースを有効活用するためにもチャット GPT は使っていくべきと考えております。



その根拠としては画面にある通り3つあります。

1つ目は生成 AI の発展スピードを考えますと、今後業務に全く使わない環境にはなりえない。接触せずにはいられないのではないかとこのころです。ならば、生成 AI に対する理解向上や知識向上のためには、早く慣れていくべきと考えます。

チャット GPT は業務を効率化できる見込みあり

2つ目は生成 AI が業務効率化に大いに活用できる余地があるということです。

チャット GPT につきましては、会議の挨拶を作ってもらうですとか、議事録を要約してもらおうといったイメージがあるかもしれませんが、この勉強会を通じて我々が考えたところ、アイデアの壁打ちやデータ分析のきっかけ作り、ブレインストーミングを通じたアイデアの具体化といったところまで可能であり、業務にかかる時間を大幅に軽減させてくれる可能性があるということが分かりました。

さらに3つ目としましては、自治体間競争で生き残っていくためには活用がかかせないのではないかとこのころです。

既に多くの自治体で活用の検討が進んでおり、横須賀市のように業務時間の短縮効果を PR する自治体もでてきています。魅力的な行政サービスを提供し、さらに職員の働き方改革を進めるという点からも活用を検討していくべきと考えております。

リスクへの対策

では、チャット GPT を活用する場合のリスクをどのように考えるかというところですが、こちら画面にある通り 3 つのリスクが考えられると思います。

情報漏洩のリスク、著作権侵害のリスク、能力低下のリスクの 3 つです。

考え得るリスク



このうち、情報漏洩のリスクにつきましては、ハード環境を整理することである程度対策できるのではないかと考えます。

チャット GPT は入力された情報を学習してしまうため、機密性の高い情報は入力できません。ただ、本当に簡単な情報しか使えないということだけでは、チャット GPT の業務活用が進まないということから、勉強会においては 3 つの対応方法を検討させていただきました。

リスクへの対策：ハード（利用環境）



利用環境	セキュリティ	コスト	導入スピード
オンプレミス ハードウェア	◎ 第IV分類まで利用可能	高	△
API連携	○ 第II分類まで利用可能	並み	○
約款型外部サービス (ChatGPT)	△ 第I分類まで利用可能	低・なし	◎

一定の監視、制限がかけられる
セキュリティに関する契約を結べる

一番上のオンプレミスというものですが、これは庁内 LAN のように専用サーバーやネットワークを専用を用意するというもので、非常にコストはかかってきますが、情報が外に出ていくことはないため、セキュリティレベルは非常に高いものとなります。

一番下のそのままチャット GPT を使う場合は無料なので、コストはほとんどかかりませんが、何か起こった時には対応が難しいということで、リスクは非常に高いということになります。

まあ、そういった比較検討から、将来的には第 2 分類（注：公開を予定している重要な情報）までの情報の活用を見据えると、一定のセキュリティを担保しつつ、コストと両立できる API 連携、API というのはアプリケーションプログラミングインターフェースの略でございますが、チャット GPT との API 連携による利用が適当と考えます。




なお、この活用方法につきましては、他の自治体でも採用されている方法です。

チャット GPT はツールのひとつ

加えて、やはり一番大事なのは活用する職員の意識、ということにあらうかと思えます。

リスクへの対策：ソフト（利用方法）

それぞれのリスクに対して、ガイドラインや研修で学習し、利用ルールの浸透を図る

 情報漏洩	<ul style="list-style-type: none">○組織の情報セキュリティの再認識○入力できる情報の定義
 著作権侵害	<ul style="list-style-type: none">○生成されたデータをそのまま使わない○著作権に影響がありそうなシーンでは使わない
 能力低下	<ul style="list-style-type: none">○生成結果を鵜呑みにせず、人の脳で最終判断をする ↑エビデンス（根拠）、論理を検証し続ける○プロンプトエンジニアリングの学習○業務効率化事例（及びプロンプト）の共有

まあ、それぞれのリスクについて、ガイドラインの策定や研修による学習により、入力している情報の範囲、生成されるデータをそのまま使うのではなく、確認や検討が必要、まあ、人の脳で判断し続ける、といった認識を浸透していく必要があると考えます。

チャット GPT につきましては、あくまでツールであるということを認識しまして、活用していくための“プロンプトエンジニアリング”、これは AI に対して適切な質問や指示を与えることでより望ましい結果を打ち出す技術というのですが、まあ、こういった技術に関しましても、事例共有などを通じて向上させることが可能であると考えます。私からは以上です。

“質問に答えるための業務フロー”をチャット GPT で

松下: 次に、B チームを代表して、総合政策課の松下から報告いたします。

B チームでは勉強会で学んだことを生かして、業務にどう使うかというアイデアをいくつか紹介しようと思います。

まず最初に選んだのが、問い合わせ対応というところですけど、どんな状況で使うかというと、赴任してきたばかりで、自分の仕事に関する質問を受けたときに、何を調べていいかすら見当がつかないみたいな時に、使うことを想定してまして、ただ、使い方として、聞かれたことをそのまま入れて回答をつくってくださという指示の出し方では、結局のところ、思ったような回答がチャット GPT から返ってこなくて、修正に結局結構時間がかかる、一から作るくらいの時間がかかってしまうということが想定されます。

狙った形式で回答させるのは命令文の工夫が必要だったりして、狙ったことを出すにしろ、何回も打ち直し直したりとかが、結局時間がかかってしまうことが考えられるので、効率的に使うためには何をやらせるかをしっかりと限定して、チャット GPT に注文しないといけないことになります。

その中で発案してるのが、聞かれた内容で関連しそうな資料であったりとか、関連しそうな法令とか通知とかってというのが何かっていうのを聞くであったりとか、質問に答えるための業務フローを整理させる。どういう作業をすればいいかっていうのを、洗い出す使い方をすれば、チャット GPT を使って業務が早くこなせるようになるかと思います。

ChatGPTの上手な扱い方①

問い合わせ対応での活用アイデア

1 仕事が進まない状況（例）

赴任してきたばかりで、専門的な内容の問い合わせを受け、
何から調べていいか検討がつかない

2 ChatGPTを利用した業務効率化方法

- ①関連しそうな資料・行うべきタスクのアドバイスを聞く
- ②所管の法令に基づいて、回答案を作成させる
- ③通知文、法令等をchatGPTに入力し、要約させ、じっくり読み込むべき文書が選別する



次なんですけど、業務効率化の方法自体を提案させるところで、何かを聞いてこう回答してもらおうというところだけじゃなくて、チャット GPT から質問をさせる使い方もできまして、何度か質問を繰り返してこれの改善方法を考えてくださいっていうような形で、業務改善のためのアイデアにする。ただ、完全にアイデアがないと、こちら側に何のこうビジョンもない状態でやってしまうと、聞く限りはもうずっと回答が返ってくるので、逆にそれで時間を無駄遣いしてしまうことにならないように、使い方の注意が必要になってきます。

ChatGPTの上手な扱い方②

業務効率化方法を提案させる

1 仕事が進まない状況（例）

効率の悪い業務の進め方をしていることは認識しているが、どう改善するかアイデアが浮かばない

2 ChatGPTを利用した業務効率化方法

- ①chatGPTに業務の内容をヒアリングをさせて、効率化のアドバイスをさせる
 - ②一般的な内容に関しては、状況を説明してアドバイスをさせる
- 例) 紙資料と電子データが業務上の記録として混在する状況で、新卒採用職員が見ても業務の進め方が分かるように時系列順に記録を整理する方法を提案させる



業務改善の手法は、世間的に確立されたものがたくさんあると思うんですけど、自分の業務に使うのが難しいところになるので、そのアイデアを出すっていう点で、チャット GPT を利用するといいいのではないかと考えました。

「AI 仮想人格」で若手の不安を解消

これからは、若手向け AI 仮想人格アイデアって書いてるんですけど、これを書いた意図としては、チャット GPT を使うにあたって、何を聞いていいかわからないっていう人が結構いると考えてまして、仮想人格とかがってちょっとキャッチーな名前をしてるんですけど、“こういう人“みたいな感じの役割を与えて、何を聞けばいいかっていうのを発想しやすくするアイデアです。若手向けとしているのは組織としてケアしきれない部分、若手のちょっとした悩みとか不安とか分からないことを、チャット GPT を使ってうまく、コストをかけずに解決できないかというところで、2つ紹介します。

1つ目が 24 時間対応 2 人目の新採インストラクターと書いてるんですけど、話し合いの中で、上司に聞きづらいことをチャット GPT に聞いてみるといいんじゃないか？っていう話で、何が聞きづらいかと言うと、重要なことは結構普通に聞けるんですけど、本当にちょっとしたこと、この敬語の表現ってどっちが正しいんですかね？っていうところを、2つチャット GPT に入れてみて、「こういう理由でこっちが正しいと思います。」っていうのを答えさせることで、本当にちょっとしたこと、どうでもいいようなことを、こっちにしたっていう根拠を素早く出すことができる。人に説明するときに、なんでこっちにしました、っていうのを素早く作ることができるっていう点で、そういう使い方をしてみたいじゃないでしょうか。

ChatGPTの上手な扱い方（若手向け）①

24時間対応 2人目の新採インストラクター

1 仕事が進まない状況（例）

忙しい上司に対して、初歩的な質問をしづらい。

例) 閲覧板や外部へのメールの言葉遣いで悩み、なかなか送信できない。

タスク管理の仕方が分からず何から手を付けるか悩む。向上心はあるが質問できない。

2 ChatGPTを利用した業務効率化方法

①敬語の使い方について、迷っている表現を洗い出してどれが適切か答えさせる。

②書類作成の仕方、タスク管理の仕方等、仕事の上達方法のアドバイスをさせる。

③忙しい上司に業務相談を行うにはどうすればよいかアドバイスさせる。

2つ目が「感情分析ですれ違いを防止するメンタリスト」と書いてるんですけど、何でそういう風に言われたかわからない、みたいな、こういう風に言われたけど、自分の経験でもなんか怒られてると思ってたけど、実は怒られてなかったみたいな。そういう意図で言われてたのじゃないよ、みたいな時に、ある程度客観的に相手の言われたこととか、自分の言ってることとかっていうのを客観的に振り返るために AI を使ってみるといようなアイデアになってます。実際あの打ち方を工夫すると、この人の発言はポジティブなのかネガテ

イブなのかとか、ポジティブと判断する理由は、この文言がこういう風に見えるからみたいなの、そこまで回答させることができたりします。

ChatGPTの上手な扱い方（若手向け）②

感情分析ですれ違いを防止するメンタリスト

1 仕事が進まない状況（例）

同僚や上司、やり取りをしている県民や事業者に主張されたことについて、なぜそう主張されたのかが分からず、客観的に状況を把握できないことで、業務を進める方向性が分からない。

2 ChatGPTを利用した業務効率化方法

- ①相手の感情分析を行う（ポジティブ・ネガティブ、感情的・論理的 の分類など）
- ②自分の発言を入力し、感情分析させてみることで、相手に誤解を与える可能性を下げる
- ③自分の感情を入力し、（つらい）気持ちを（和らげる）ためのアイデアを提案させる

活用の可能性は果てしなく広がっている

最後のまとめですけど、業務改善手法とか硬いことから、感情分析とかコミュニケーションの円滑化とか、そういうところまで活用の可能性っていうのは果てしなく広がっていると考えてます。

活用の可能性は果てしなく広がっている

回答のフォーマットは質問の仕方により無限大



質問文を作成する高い文章力が求められる

- 結論を生成するのではなく、きっかけを生成するために利用すること
- 自分で確かめられない情報は扱わないこと
- 繰り返し利用することでより良い回答が得られるパターンを習得できる

理由としては、回答のフォーマットが決まっていないのが大きくて、質問のやり方によって、ヒアリングをさせたりとか回答させたりとか、いろいろやり方がたくさんある。

ただ、これがいいことだけではなくて、時間が無駄遣いになってしまう瞬間も否定しきれないところがありまして、質問文をちゃんと作れる能力っていうのがないと、この無限にこう使い続けてしまって、結局仕事が遅くなるっていうリスクもあるので、ここについても考える必要があると考えてます。

最後のまとめ3点なんですけど、結論を生成するのではなくて、きっかけを生成するために利用する事って書いてまして、意図としては、結論を作ってしまうのは、文章の作成に安易に使ってしまうと、作るのは楽になってるんですけど、読むのは楽になってるわけではないので、そこを考慮しないと文書削減とか、そういう重要なところが逆に止まってしまう恐れがあると考えてます。そこを、行政からの情報の受け取りである県民目線の改善と言うか、そこを踏まえて導入は考えないといけないと思ってます。

2つ目が自分で確かめられない情報は使わないことっていうところで、結局自分で確かめられない情報は仕事で使えない情報でしかないんで、いくらチャット GPT に聞いたところで時間が無駄ってことを認識する必要があると思います。

最後、繰り返し利用することでよりより良い回答を得られるパターンを習得できる、って書いてるんですけど、実際使ってみたら分かると思うんですけど、何回もやっていると、一発でこういう願った回答が出せたりとか、こういう聞き方をするといいんだっていうのが掴めてくるので、今からどんどんユースケースを増やして、質問を効率的に作るための入力フォーマットみたいなのを作ったり、こういう聞き方をするとこういう回答がきますっていうデータベースを今のうちから作っておくことで、実際全庁に向けて導入ってなった時の浸透の速さ、改善に向けての取り組みの多さとか速さとかが変わってくると思うので、今からの期間がすごく重要だと考えてます。

これでBチームからの報告を終わります

誤った情報が含まれる可能性も

栗林: かわりまして、Aチームの久万高原森林林業課、栗林が代表いたしまして、現時点でまとまっているガイドラインの草案について説明させていただきます。

画面に表示しているのが、現在まとまっている愛媛県版チャット GPT ガイドライン草案のチャット GPT の利用者への注意事項の部分の抜粋でございます。内容を紹介させていただきます。

まず1つ目。入力する情報について、チャット GPT はセキュリティ対策の観点から、愛媛県情報セキュリティ対策基準で定義されている第1分類の情報のみを入力をするように制限させていただきます。

愛媛県版チャット GPT 利用ガイドライン（草案）

1 □チャット GPT の利用者への注意事項

(1) 入力する情報について

- ・チャット GPT に第 2 分類以上の機密情報を入力しないでください。
- ・入力可能な情報は「愛媛県情報セキュリティ対策基準」に定義されている「第 1 分類」のみです。

第 4 分類：個人情報及び業務上必要とする最小限の者のみが扱う情報（極秘の情報を含む。）

第 3 分類：公開することを予定していない情報（秘の情報を含む。）

第 2 分類：外部に公開する情報のうち業務上重要な情報

第 1 分類：上記以外の情報

(2) 回答内容の精査

- ・チャット GPT は機械学習により生成された言語回答であり、正確性や客観性が十分ではなく、偏った情報や間違った情報が含まれる可能性があるため、信頼性の高い情報源と照らし合わせ、事実確認を行う必要があります。

2つ目に、回答内容の精査。チャット GPT はあくまで機械が学習してきた内容の中から生成された内容を返してくるようなものなので、正確性や客観性については十分な内容ではありません。誤った情報が含まれる可能性がありますので、十分に精査を行う必要があります。

3つ目に倫理的な判断能力の欠如です。チャット GPT は倫理的や道徳的な判断をすることができません。なので、そういう問題に関する意見やアドバイスを求める場合は専門家の意見をあおぐことが必要です。

(3) 倫理的な判断能力の欠如

- ・チャット GPT に倫理的・道徳的な判断を求めることは推奨できません。当該問題に関する意見やアドバイスは専門家等の判断を仰いでください。

(4) 具体的な質問と情報提供

- ・チャット GPT は、入力言語の雰囲気などからその状況を推察することができない（空気の読めない）人口知能です。より適切な回答を得るためには、明確かつ具体的な質問をする必要があります。
- ・必要とする回答が得られない場合は、追加情報をチャット GPT に提供してください。

(5) 著作権と知的財産権

- ・チャット GPT は著作権や知的財産権に配慮する能力を持っていません。県が権利を有する文書として公に発表する場合は内容に特に注意してください。正当な権利者の許可を得る必要があります。

(6) 使用責任

- ・チャット GPT の利用責任はユーザー側にあります。チャット GPT の回答や提供された情報に基づいて行われる活動や決定においては、慎重かつ自己責任に基づいた判断を行ってください。

4つ目に具体的な質問と情報提供です。チャット GPT は入力された言語の雰囲気、要するに空気ですね、を読むことができません。より適切な回答を得るためには、明確で具体的な質問をしたり、詳細な情報を与えてあげる必要があります。

5つ目に著作権と知的財産権についてです。チャット GPT はインターネット上に公開されているデータの中から情報を集約してきますので、著作権や知的財産権に配慮する能力を持っておりませんが、権利を有する文章として公に公開する場合などには、特にその辺には注意をする必要があります。

最後に使用責任についてです。チャット GPT の利用の責任は必ず人間にあります。

チャット GPT に回答してもらった内容を使うにあたっては、必ず人間が責任を持って慎重に判断を行って利用する必要があります。

8つの得意なこと

続きまして、チャット GPT が得意なことということで、8つまとめさせていただきました。

全部紹介することは割愛させていただくんですが、情報の抽出・集約・予測ができることや、アイデアをたくさん出せること、多言語に翻訳できることなど、大まかに8つの得意なことがあることが勉強会の中で分かりました。

チャットGPTの得意なこと

1. 情報の抽出、集約、予測ができます
2. アイデアをたくさん出せます
3. 多言語に翻訳できます
4. 文章を簡潔に要約できます
5. 専門的な言葉づかいをわかりやすくできます
6. 計画の道筋を一緒に考えることができます
7. 見落としがちな項目を補完できます
8. 指定された形式で回答できます

18

これらもガイドラインの中に盛り込んでいって、こういうことはしてはいけませんよっていうような制限をかけるだけではなく、前向きにどんどん職員の皆さんが活用したくなるような中身のガイドラインになっていけばいいなと思っています。

以上です。

村上: はい、ということで、各チームの代表の方ありがとうございました。これらはまだ草案ということで、あのあくまでも勉強会でこのぐらい考えてます、というものになりますので、これから発展していくのかなと思っています。

ということで、ここまでの内容をまとめて振り返って参りたいと思います。

提案1: 庁内業務での活用を推奨!

まとめですね。チャット GPT を庁内業務で使うかどうか活用するかどうかについては、結論として活用を推奨いたします、ということで報告をさせていただいております。

まとめ: 愛媛県でチャットGPTを 庁内業務で活用すべき?

• 活用を推奨 (必ず人の目でチェックし最終判断)



ただし、その結果については必ず人の目でチェックし、最終判断することを推奨したいと思っています。

続きまして、どうやって使うかというところですね。

提案2: セキュリティ対策可能な API 連携で利用開始を!

チャット GPT の使い方、いろいろあることを研究して参りましたが、セキュリティ対策が可能な API 連携で使う、というのも先ほど提案させていただいたところです。これは具体的には、下の写真で載せておりますが、自治体初の導入事例となった横須賀市さん、あるいはこの勉強会で講師として立っていただいたギブリー社が提供する行政 GAI などのいくつかの選択肢があると考えております。

ユーザーにとって使い勝手の良いものを検討していただき、選択をいただければと考えております。

まとめ:愛媛県でチャットGPTを どう使う？

•ハード面でのリスク対策

- セキュリティ対策可能なAPI経由*で利用開始を
(*横須賀市のLOGOチャットボットや「行政GAI」など活用を想定)



API経由での利用例

続きまして、リスクに関するソフト面での対策になります。

提案3:生成結果は必ず人の目で確認を！

ソフト面でのリスク対策につきましては、先ほど見ていただきました、勉強会で作ったガイドラインの草案なども参照していただきつつ、AIに関する学びを継続するなどして、利用ルールをユーザー間に浸透させていくことが大切だと考えています。

まとめ:チャットGPT利用に伴う リスク対策

•ソフト面

リスクへの対策:ソフト(利用方法)	
それぞれのリスクに対して、ガイドラインや研修で学習し、利用ルールの浸透を図る	
情報漏洩	<ul style="list-style-type: none">○組織の情報セキュリティの再認識○入力できる情報の定義
著作権侵害	<ul style="list-style-type: none">○生成されたデータをそのまま使わない○著作権に影響がありそうなシーンでは使わない
能力低下	<ul style="list-style-type: none">○生成結果を鵜呑みにせず、人の目で最終判断をする ↑エビデンス(根拠)、論理を検証し続ける○プロンプトエンジニアリングの学習○業務効率化事例(及びプロンプト)の共有

で、特に一番下にありますように、読み書きする能力が低下するかどうかにつきましては、まだこの時点では判断できないのですが、生成結果を必ず人の目で確認することとか、プロンプトエンジニアリングを学ん

で、チャット GPT に対する質問力を高めることなど、常に人の頭で考え続けることが大事なのではないかという風に考えております。

提案4: 夏頃を目途に試験導入を！

はい、ということで、導入に向けてのステップのところも考えて参りました。

導入につきましては、これらリスクのことも考慮いたしまして、大体夏頃を目処に、先ほど話がありました API 連携で試験的に導入をしていくというのがいいのかなと思っています。

まとめ:想定される導入ステップ



その後、本格導入の可能性を検討するという段階的な導入を得ていくというのがいいと思っています。

そして、ガイドラインについても、この試験期間で具体的な内容を盛り込んでいくなど、全庁的に AI を使いこなしていく基盤を確立して、最終的には県民の皆様により多彩なサービスを提供できるようになること、というのが理想的なのではないかなという風に考えております。

なお、先ほどお話がありましたガイドラインですが、先行自治体の事例も確認しております。栃木県では日本ディープラーニング協会の雛形を参照していたり、横須賀市さんでは、ご覧のようなルールに基づいて利用していたりします。また、静岡県は、2 週間ほど前に公開をされていますが、きちんと章立てたカッコリしたものを作っています。

参考になる事例は集めておりますので、ぜひこの後、参照していただければと思います。

はい、ということで、以上で勉強会の成果のまとめを終わらせていただきます。

最後になりますが、勉強会の歩みについて簡単に振り返らせていただければと思っています。私たち 24 名のメンバーはこれまで 5 月から 6 回にわたって勉強会を開催してまいりました。

これまでの学び

まず 1 回目ですが、マスコミの皆さんにも公開して実施をまいりました。『AI で変わる未来』と題しまして、生成 AI が社会に浸透した 10 年後の未来を題材に研究していきました。

チャットGPT勉強会 研究過程

- 1. 5/17 AIで変わる未来
- 2. 5/24 国の動き
- 3. 5/31 生成方法の理解
(Givery社)
- 4. 6/7 リスクと対策
- 5. 6/14 組織の変え方
- 6. 6/21 利用の方向性
(まとめ)



将来は自然言語がユーザーインターフェースになるだろう、ということなどについて学び、時間軸を将来に長めに伸ばして、そこからバックキャストして、今の行政の在り方ってというのはどうなんだろうということの研究してきました。

その中で、10 年後には AI にしかできないこと、あるいは人間にしかできないことってというのが区別されて人間にしかできないことに私たちは注力するようになるだろうと考え、そのためには、2 年後には職員研修等に参加して、職員の AI リテラシーを上げていく必要があるという意見が出ていました。

2 回目ですが、ここでは『国の動き』をテーマといたしまして。今度は空間軸を、県内だけではなく、国まで広げて、自民党の AI プロジェクトチームのホワイトペーパーの内容などを参照して参りました。

で、例えば愛媛県ではこんなパイロットプロジェクトがよいのではないかと考えてきました。そこでは、業務に必要な参照が簡単にできるようなシステムの導入というアイデアが出てきました。これらは改めて可能性を検討していきたいと思っております。

そして 3 回目は『生成方法の理解』といたしまして、チャット GPT の利用経験が豊富なギブリー社の講師を招いて、チャット GPT の生成方法とかフロントエンジニアについて学びました。

チャット GPT は、質問の仕方次第で回答が大きく変わってくるということで、どうやって質問するかっていうところがすごく大事だというのが重要な学びです。

さらに、4 回目は『リスクと対策』をテーマに、スマート行政推進化の峯松さんを講師として、チャット GPT を導入する際の庁内 LAN でのセキュリティ対策の肝について学んで参りました。

また、チャット GPT については、現状では使うリスクが大きいという風に見られていると思うんですけども、近い将来は使わないリスクの方が大きくなっていく可能性があるという見込みを共有したところです。

5 回目につきましては、『組織の変え方』をテーマにしまして、“マッキンゼーの7S”というフレームワークを元に、このチャット GPT を庁内に導入するということは、どんな影響があるかというところを学んで参りました。

チャット GPT を入れることによって、「仕組」、そして使う人の「スキル」がどんどん変わってきて、それが組織全体に影響を与えるのではないかなということを研究してまいりました。

そして、先週、第 6 回目では、ABC3 チームに分かれて、これまでの勉強の成果をまとめていただきまして、一般職員向けに公開してプレゼン大会を行い、80 名を超える一般職員の方にも参加頂きました。

その結果、本日の CDO 報告会につながるということになっております。

提案5: 学びの継続を！

というわけで 6 回にわたりまして勉強会を開催してきましたが、この 6 回だけでも多くの学びがあったと思います。生成 AI やチャット GPT についてたくさん学んできたと思いますし、まだまだ学びきれてないことも多いのではないかとこの風に考えています。

AIを使いこなす学びの継続を！



The image displays a learning platform interface. On the left, a vertical menu lists several courses: 'プロンプトエンジニアリング' (Prompt Engineering), 'AIデータ・セキュリティ' (AI Data Security), 'プロンプトエンジニアリングガイド' (Prompt Engineering Guide), 'ChatGPT入門' (ChatGPT Introduction), '情報リテラシー' (Information Literacy), 'ITベーシックコース' (IT Basic Course), and '職業としてのプログラミング' (Programming as a Profession). The Givery logo is at the bottom of this menu. On the right, a banner image shows a person working at a laptop in a modern office setting, with the text '社内水準を世界水準に。' (Domestic level to world level). Below the banner are the logos for GLOBIS and Schoo.

Givery社：基本的な情報リテラシー学習から始められるカリキュラム
<https://www.udemy.com/> <https://schoo.jp/> <https://globis.co.jp/>

ということで最後のスライドになりますが、今後チャット GPT を県庁で導入することになった場合は、是非この生成 AI,あるいはチャット GPT を、新しいツールとして使っていくため、それを理解して使いこなすためにスキルを学ぶ機会、これを継続的に与えていただければ。ということで、最後に提案をさせていただきます、同勉強会の報告を終わりたいと思います。